

コード No.

提出日：2018年11月30日

平成30年度「第7回CENA夏季学校」報告書

公益財団法人早稲田奉仕園
片岡平和

1. プログラムの目的

多宗教・多文化の背景を持つアジア各地の若者が集い、共同生活と学びを通じて多様な価値観に触れ、武力によらないアジアの平和構築について考え、実践する人材育成を目的にする。今回は2018年8月5日から10日まで韓国の済州島にて「なぜ国民国家は人びとを殺すのか？」をテーマとし、70年前に起きた済州島4・3事件について学び、激動の朝鮮半島の状況についても学ぶ。また、教授陣による講義や学生プレゼン、ゲスト講義などを行う。

CENA (Civil Society Education Network in Asia)夏季学校は2012年から毎年行われている。日本からは早稲田奉仕園、恵泉女学園大学、聖心女子大学、韓国からは聖公会大学校、韓信大学校、台湾からは、世新大学、タイからはアジアイスラーム教徒活動ネットワーク AMAN、インドネシアからインド・イスラーム大学 UII が共催した。

2. 主な活動内容・スケジュール 2018年8月5日(日)～10日(金)

| | |
|------|---|
| 8月5日 | 羽田空港国内線ターミナル集合。金浦空港経由で済州空港到着。済州大学西帰浦(ソギポ)研修所へ移動、夕食、就寝 |
| 8月6日 | 午前：自己紹介、グループ作り、アイスブレイク、CENA プログラム趣旨説明 午後：インドネシアの参加者と AMAN による「ロヒンギャ問題」発表。日本学生による「沖縄の歴史、米軍基地問題」発表。韓信大学生による「国家暴力の変遷」発表 夜：済州島と沖縄に関する映像視聴 |
| 8月7日 | 午前：台湾学生による「ハンセン病療養所強制排除」発表。希望者による発表 午後：カンジョン村の海軍基地反対運動の現地研修。教職員は済州島平和研究所表敬訪問。6グループに分かれてのシナリオワークショップ 夜：ワークショップグループ発表 |
| 8月8日 | 午前・午後：済州島平和ツアー。4.3事件平和祈念公園、虐殺現場、視察。4.3事件被害者遺族からの証言 夜：最終日のカルチュラルナイトに向けたグループワーク。教職員は来年のCENA夏季学校に向けてミーティング |
| 8月9日 | 午前：チョ・ヒョン(曹喜松)ソウル市教育長特別講演「韓国の平和教育と教育改革」、ソ・ジェジョン(徐載晶)ICU教授講演「朝鮮半島と北東アジア平和」。プログラムを振り返りグループディスカッション |

| | |
|-------|--|
| | 午後：観光（グループ行動）。教職員ミーティング 夜：カルチュラルナイト |
| 8月10日 | 済州空港到着、金浦空港経由で羽田空港到着、解散 |

3. 助成を受けた活動の報告（様子がわかる写真等があれば貼付してください）

今年には12か国/地域から50人の学生・院生と8つの大学/教育機関から11名の教職員が参加した。済州大学西帰浦（ソギポ）研修所を拠点として各国/地域からの学生による発表と教員による発表を行った。「国家暴力」という一つのテーマを通して「米軍基地問題」や「ロヒンギャ問題」など、それぞれの国の問題についての発表を聞くことができ、東アジアの多様な問題に目を向けることができた。また、済州島平和ツアーを通して4.3事件の現場と被害者遺族の証言を聞くことができ、座学だけでは想像しきない有意義な体験をした。異なる文化や言語の中で多様な歴史に触れ、実感の伴った学びの機会となった。



済州島平和ツアーで訪れた4.3事件平和祈念公園にて

4. 活動の成果（成果物などがありましたらご紹介ください）

別冊の報告書、早稲田奉仕園スタッフのブログより報告記事

<https://blog.hoshien.or.jp/2018/09/19/7thcena/>

5. 今後の課題

当面の課題として来年沖縄で開催される第8回CENA夏季学校を成功させることにある。事務局機能を早稲田奉仕園が担い、各国の共催組織との連絡調整、計画実施が滞りのないよう管理する必要がある。

第8回は沖縄、第9回は台湾での開催を予定しているが、その後の予定が未定となっている。第10回を一つの区切りとしているが、運営委員内での意思決定はまだ固まっていない。来夏に向けてオンラインミーティングや顔を合わせて会議を持ち始めているため、将来的にCENA夏季学校をどのように存続させていくか、長期的な視野を持ちつつ前向きに検討していきたい。